

第1回 琵琶湖活用推進検討会議 概要

1. 会議の概要

- ◇日 時 平成29年7月31日(月) 10:00~12:00
- ◇場 所 県庁北新館 5-B会議室
- ◇出席委員 12名(欠席 1名 川戸委員)
- ◇議 題 琵琶湖活用の現状や課題について 他

2. 主なご意見

【県民にとっての琵琶湖】

- 子どもたちは「うみのこ」などでの体験が、その先や将来へと繋がっていない。
- IVUSA(イヴューサ)の外来水生植物駆除活動などで多くの大学生が琵琶湖に関わってくれるが、その多くが「京阪神の大学生」である。
- 地元の人に、何らかのきっかけで琵琶湖に関わってもらい、関心が琵琶湖に向くようになれば、守る人となってもらえる。
- 琵琶湖に対しては、「県外の人」からの方が評価が高く、逆に県内の子ども達などは教えられた知識から「昔はきれいだったが、今は汚い」と答える。
- 県内向けの「INNER・ブランディング」をしっかりと行い、子どもたちに正しく伝えることが必要
- 「琵琶湖の価値を、我々自身が再発見すること」、これが当事業の根幹かと考える。

【琵琶湖と共にある暮らし】

- 琵琶湖を「活かす」とは上から目線の表現だとの声も聞く。我々は「琵琶湖に生かされている」のであり、この検討では「琵琶湖からの恵みを活かす」と謙虚に捉えるべき。
- 週末に沖島でガイドをしているが、観光客が増えてきたのが気がかり。団体のツアーで訪れても、島の魅力は伝わらない。「暮らしの島」であり、ぼーっとするだけでも良いので島で暮らしを感じて欲しい。
- 沖島では数ではなく、リピーターを増やすような観光の振興が重要

【琵琶湖からの反省】

- 保全再生法はポスト琵琶湖の側面もあり、地域経済の振興という観念があるのも事実。琵琶湖はまさに「治水や利水のために、琵琶湖を活用した事例」だと思うが、その中で多くの物が犠牲になってきた。
- 例えば「魚のゆりかご水田」は、まさに琵琶湖で失われたものを取り戻す取組
- 琵琶湖で整備した施設の更新時期を迎えるが、水資源の側面ばかりに力点を置いてきたことへの反省が反映されると良い。

【県外からの目】

- 大阪出身だが、滋賀の人の「当然琵琶湖が好き」という感覚がうらやましい。地域のアイデンティティは大切。その想いをどう流域の人に伝えるか。
- 大阪でボートをやっていた学生時代、滋賀・琵琶湖といえばあこがれの地であった。
- うみのこの交流航海のように、他府県の子どもたちにどう琵琶湖を体験してもらうか。

【県外への発信】

- 東近江市で行われた sea to summit のように、市町で様々なイベントが行われている。県での統括したPRが必要ではないか。
- 湖上体験には全国から多くの学校に来ていただいております、しっかりとしたメニューを作り商品化すれば、全国の旅行業者が「購入」をしてくれる。湖上体験からの農家民泊など、プログラムをつくる必要がある

【国際的な視点】

- 東南アジアを中心に、琵琶湖の水環境関連技術について注目があつまっている。
- 安全な水に困っている途上国に経験を伝えるなど、世界に発信ができる。

【子どもたちと琵琶湖】

- 今の子どもたちは、圧倒的に体験不足。マッチすら擦れない子がいる。学校教育の中で、漁業体験や水上スポーツなどを体験させたい。
- 教育に対しては、地引き網体験や給食に湖魚を出す事業などが展開されている。手弁当で学校に出向いての湖魚講座を行っているが、実費の「材料費」が捻出できずに流れる話がある。

【人育てへの工夫】

- 「琵琶湖を活かす人を増やす」工夫に合わせて、「活かす人に、どう守る人になってもらうか」への工夫が必要。
- 多様な人々が琵琶湖を活用しており、その人たちは既に「守る人」になっている。ただ、琵琶湖に関わる人同士の横のつながりが希薄ではないか。

【森と湖とのつながり】

- 山が荒れると琵琶湖は汚れる。そのつながりを今頃認識しているようでは遅い。水を良くするには、源流から改善する必要がある。
- 山の関係者は琵琶湖の事を考えておらず、琵琶湖の人も山への意識が低いと感じる。
- 「木地師のお椀で湖魚を食べる」とか「鹿肉と湖魚のコラボ」など、山から湖までの食や暮らしをまとめて考えられないか。
- 植樹祭が検討されているが、一過性の物ではなく次につながるものにして欲しい。

【湖上スポーツ】

- 体験施設で競技カヌーの練習に取り組む子どもたちがおり、今年は小学生、中学生が

全国大会で優勝を収めた。

- 「スポーツをする」だけでなく、「スポーツを見る」人が増えてくる中、漕艇場に観客席が無いのが課題。
- プリンズホテルからびわ湖ホールを経て琵琶湖ホテルまでの直線で、ギャラリーを集めてレースがしたいと思っている。

【環境問題】

- 内湖をしっかりと良くしてほしい。早崎の事業があるが、ハスが茂っている状態で光が差さず、水中はひどいことになっていると想定される。
- 琵琶湖には田んぼに上る魚が多いので、泥水は決して悪者ではないと思うが、農業排水の与える負荷が大きい。

【以上】